

キスリング展

2019年度-

キスリング（1891-1953）はエコール・ド・パリを代表する最も有名な画家の一人です。彼はエコール・ド・パリの中でも比較的早い段階で成功を収め、またその人柄から多くの人々に慕われ「モンパルナスのプリンス」と呼ばれました。



キスリングは様々な様式から着想を得ましたが、決してある特定の主義に従うことはありませんでした。彼は独自の道を歩むため、造形上の新たな様式を切り開いたのです。古典的主題を好み、風景画や花束などの静物画を描いたキスリングですが、とりわけ肖像画はその作品の大部分を占めています。

本展は油彩画を中心に、キスリングの初期から晩年までの作品60点以上で構成され、肖像、花、風景、裸婦、静物など様々な主題の作品を紹介しています。

出品作品：

- 主に油彩 約60点

<画像>

左：

キスリング

《ミモザの花束》

Bouquet de mimosas

1946年

油彩・カンヴァス

73.5 x 60cm

パリ市立近代美術館

右：

キスリング

《ベル＝ガズー（コレット・ド・ジュヴネル）》

Bel-Gazou (Colette de Jouvenel)

1933年

油彩・カンヴァス

160 x 110cm

カンティーニ美術館、マルセイユ

ご注意：掲載されている画像・写真・テキストを含むすべてのコンテンツに関する著作権は株式会社ブレイントラストに帰属するか、または使用が許可されており、日本の著作権法および国際条約によって保護されています。特に断り書きのある場合を除き、これらを許可なく利用・複製・再配布・出版することを禁じます。

© 2004-2019, Brain Trust Inc. All rights reserved.